

事業者行動計画書（変更計画書）

2021年8月20日

（宛先）

滋賀県知事

提出者

住所（法人にあつては、主たる事務所の所在地）

滋賀県蒲生郡日野町大谷東山 341

氏名（法人にあつては、名称および代表者の氏名）

ヘンケルジャパン株式会社 日野事業場

事業場長 今井 慎也

滋賀県低炭素社会づくりの推進に関する条例 第20条第3項・第20条第4項
第22条第1項・第22条第2項において準用する同条例第20条第4項の規定に基づき、事業者行動計画を策定（変更）したので、提出します。

事業者の氏名（法人にあつては、名称および代表者の氏名）	ヘンケルジャパン株式会社 代表取締役社長 浅岡 聖二
事業者の住所（法人にあつては、主たる事務所の所在地）	東京都品川区東品川 2-2-8 スフィアタワー天王洲

1 事業所の概要

事業所の名称	ヘンケルジャパン（株）日野事業場				
事業所の所在地	滋賀県蒲生郡日野町大谷東山 341				
主たる事業	細分類番号	1	6	9 4	ゼラチン・接着剤製造業
該当する事業者の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量が、年間1,500キロリットル以上の事業所を県内に有する事業者				
	<input type="checkbox"/> 従業員数が21人以上であつて、エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガス排出量が、二酸化炭素換算で年間 3,000 トン以上の事業所を県内に有する事業者				
	<input type="checkbox"/> 任意提出事業者				

2 計画の内容

計画の内容	別添のとおり
-------	--------

注 用紙の大きさは、日本工業規格A列4番とします。

1 計画期間

計画期間	2021年度	～	2026年度
------	--------	---	--------

2 低炭素社会づくりに係る取組に関する基本的な方針

○ ヘンケルのサステナビリティ戦略：2030年までの目標
 2030年に向けた私たちの20年目標は、ヘンケルの事業活動や製品やサービスによって生じる環境フットプリントに対して創出する価値を3倍にすることです。2030年までに事業効率を3倍に高めるという目標を達成するには、毎年平均5～6%ずつ効率を高める必要があります。自らが創出する価値と環境フットプリントの関係を全体で38%改善させるという2011年から2015年までの目標は達成され、2020年までに効率が64%改善しました。これまで目指してきた中間目標は、2030年までに事業効率を3倍に高めるという長期目標を目指す旅路の重要なマイルストーンです。

ヘンケルの注力分野

社会的発展

私たちは、社会の発展、人々のエンパワーメント、基本的権利の保護に積極的に貢献したいと考えています。

- 2025年までに、世界中の2,000万人の生活を改善する
- 50,000人以上の社員をサステナビリティに関与させる
- 2025年までに、責任ある調達を100%にする

パフォーマンス

私たちは、バリューチェーン全体のパートナーのためにさらなる価値を創出し、売上高を増やしたいと考えています。

- すべての新製品をサステナビリティに貢献するものにする
- 2025年までに、製品の包括的なサステナビリティプロフィールをお客様に提供する
- 2025年までに、製品1トン当たりの純売上高を10%増加させる

安全衛生

私たちはより安全な職場を作り、保健衛生の改善に貢献したいと考えています。

- 2025年までに、百万労働時間当たりの健康・安全パフォーマンスを60%改善する
- 事故ゼロは私たちの長期的な目標です
- 毎年90%の社員にグローバル保健キャンペーンを実施する

エネルギーと気候

私たちは、気候保護に貢献し、再生可能エネルギーに依存し、エネルギー使用量と排出量を削減したいと考えています。

- 2025年までに、製品1トン当たりのCO₂排出量を65%削減する
- 2030年までに、CO₂排出量を75%削減し、使用する電力の100%を再生可能なエネルギーから調達する
- 2040年までに、クライメート・ポジティブになる
- 2016年から2025年までの間に、消費者、お客様、サプライヤーとともに、CO₂排出量を1億トン削減する

原材料と廃棄物

私たちは、原材料をより効率的に使用し、持続可能な資源に完全に転換し、廃棄物発生量を削減したいと考えています。

- 2025年までに、製品1トン当たりの廃棄物発生量を50%削減する
- 2025年までに、包装材を100%リサイクル可能または再利用可能*にし、化石由来のバージンプラスチックを50%削減する（一般消費者向け製品における再生プラスチックの使用を30%以上にする、自然環境へのプラスチック廃棄をゼロにする、など）
- パーム油：責任ある方法で調達され外部機関により保証されたものを100%にし、100%追跡可能とする

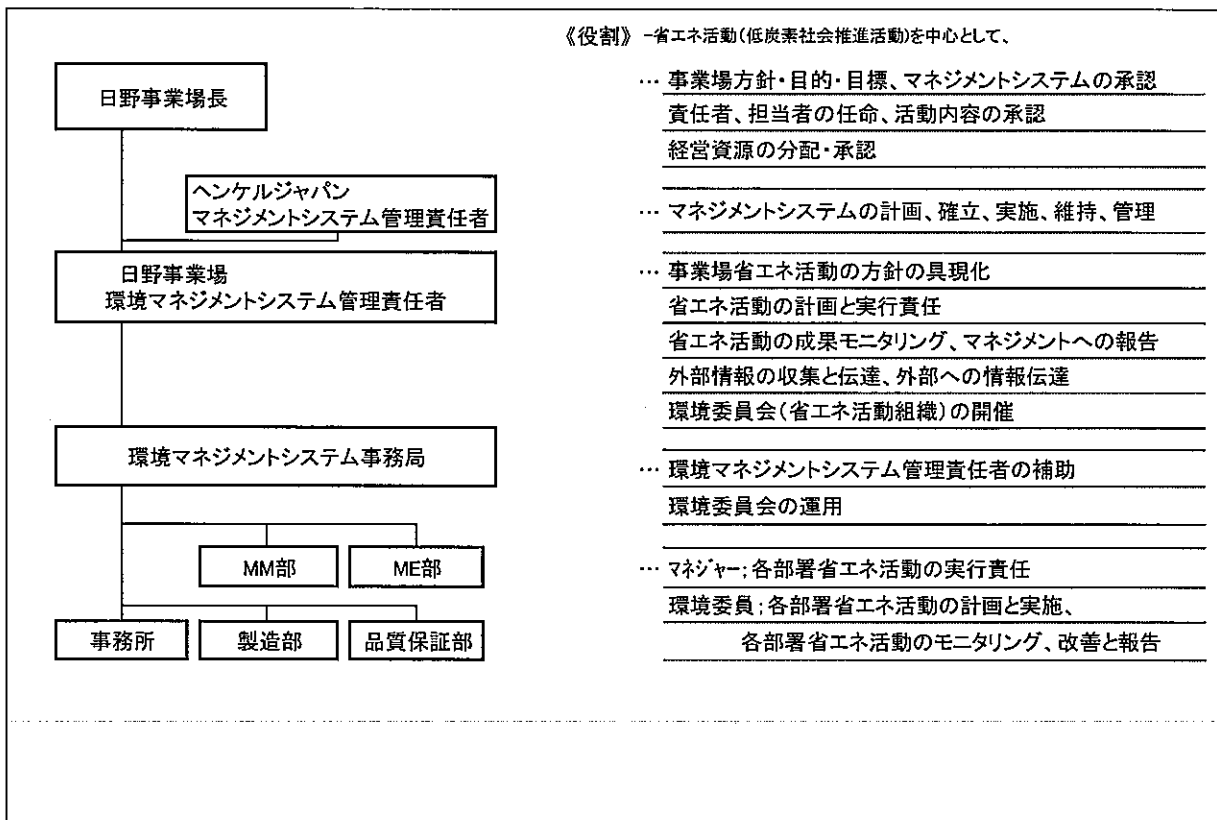
*残留物がリサイクル可能性に影響を及ぼしたり、リサイクルストリームを汚染したりする可能性がある接着剤製品を除く。

水と廃水

私たちは水への影響を削減し、水の消費量と廃水を減らしたいと考えています。

- 2025年までに、製品1トン当たりの水の消費量を35%削減する
- 水の消費量を削減するために、製品の責任ある使用を奨励する

3 低炭素社会づくりに係る取組に関する推進体制



備考 組織図を記載し、役割分担および責任者の役職を記入してください。

(第2面)

4 これまでに取り組んできた低炭素社会づくりに係る取組

1. 蒸気ボイラーを更新する際に、小型還流ボイラーによる台数制御式を導入した。
2. 受電設備の更新による変換効率を改善した。
3. エアーコンプレッサー1台、機器更新時に75kw→55kwインバーター式を導入した。工場全体の消費電力削減を目的として、省エネ型インバーター制御式のエアーコンプレッサーを増設して、運用の見直しを行った。
4. エアードライヤー(2台保有)機器更新時に省エネ型インバーター制御式を導入した。
5. 場内の照明器具を高効率照明器具に更新。順次LED式に更新した。
6. 工程ダイヤの作成。製造作業での各工程をスケジュール化することで、最適人員の配置を図ることと並び、エネルギー使用設備の運転時間の集約化をした。
7. 食堂、カフェテリア、トイレ等特定エリアの照明のON/OFFには、人感センサーを設置した。
8. 主要生産設備に消費電力モニターを取り付けた。設備更新の際、負荷調査を行い、出力過剰となっていたものに対しては、モーター出力のサイズダウンを行った。
9. 新規導入した蒸気ボイラーでは、蒸気ドレーン回収と補給水の予熱ができる設備を導入した。
10. 設備棟の屋根に遮熱シートの設置を行った。室内の温度上昇が機器の運転負荷上昇となる場所に、遮熱シートを設置して夏季の温度上昇を抑える。
11. 一部の通路にソーラー式センサーライトを設置した。夜間の照度を確保しながらも、これによる電力使用量の上昇はなし。

(第3面)

5 自らの温室効果ガス排出量の削減に向けた取組

(1) エネルギー起源CO₂排出量の削減に向けた取組の内容等

	取組項目	取組の内容	実施スケジュール
1	設備導入対策	インバーターの更新、インバーター制御式への更新	2021年度～ 2026年度
2	設備導入対策	高効率照明設備 LED 照明器具への更新	2021年度～ 2026年度
3	設備導入対策	冷凍機・エアコン・換気設備の更新	2021年度～ 2026年度
4	設備導入対策	エアーコンプレッサーの更新	2021年度～ 2026年度
5	運用改善対策	ボイラーや熱媒利用の効率改善	2021年度～ 2026年度
6	運用改善対策	蒸気配管系統の漏れ、保温カバーの損傷を確認ならびに 修繕	2021年度～ 2026年度
7			
8			

(2) エネルギー起源CO₂以外の温室効果ガス排出量の削減に向けた取組の内容等

	温室効果 ガスの種類	取組の内容	実施スケジュール
1			
2			
3			

(3) 上記の取組により達成しようとする目標および目標設定の考え方

2020年度を基準年として、以下の数値目標の達成を目指します。

原単位＝エネルギー使用量／生産量 で毎年1%以上削減

温室効果ガス排出量は、エネルギー使用に基づく別紙表の計算値であり、原単位の考え方として、温室効果ガスの排出量は生産量に大きく影響を受けるため、生産量を分母として設定しました。

(第4面)

6 事業活動を通じた他者の温室効果ガスの排出削減により低炭素社会づくりに貢献する取組

(1) 取組の内容等

当事業場では一例として、ガラス繊維集束剤（FRP 製品補強剤）を製造しています。この最終用途として、風力発電機等の一部に活用されており、これらが今後設置されることにより低炭素社会づくりに貢献できるものと考えます。

(2) 上記の取組により達成しようとする目標および目標設定の考え方

将来的な風力発電機の需要、及び設置に基づきます。

(第5面)

7 その他の低炭素社会づくりに向けた取組

	取組項目	取組の内容および当該取組により達成しようとする目標	実施スケジュール
1	運用管理	エネルギー削減のための管理基準の設定を行い、これに基づき運用・管理を推進します。	2021年度～ 2026年度
2	運用管理	冷凍機・エアコン・換気設備の運用改善をして節電をします。	2021年度～ 2026年度
3	設備	工場棟・事務区画の屋根、壁、窓の断熱施工を計画しています。	2021年度～ 2026年度
4	廃棄物リサイクル	焼却処分していた廃棄溶剤のリサイクル化を進めます。	2021年度～ 2026年度
5			
6			
7			
8			